

第14回 大阪府財務マネジメント委員会 議事概要

- 1 日 時： 平成30年7月31日（火）午後1時30分～午後2時30分
- 2 場 所： 東京八重洲ホール9階 901会議室
- 3 出席者： 石井会長、今井委員、江夏委員、大神委員、大崎委員、河村委員、竹田委員、
玉岡委員、波多野委員、浜田委員、百留委員
- 4 議 題
(1) 平成30年度大阪府債下半期発行計画（案）
(2) その他

5 主な議事概要

○議題（1）及び（2）に関して、資料1「直近の大阪府債の状況等について」、資料2「2年債の発行について」、資料3-1「平成30年度大阪府債下半期発行計画（案）」、資料3-2「平成30年度における発行額の減額調整について」、資料3-3「大阪府債の発行状況及び各種指標について（民間資金）」、資料4「〈参考〉2年債の発行規模のシミュレーション」、資料5「〈参考〉定時償還債の発行について」及び資料6「資金運用の実施状況について」に基づき事務局説明後、各委員による意見交換及び質疑が行われました。委員の主な発言は以下のとおりです。

《平成30年度大阪府債下半期発行計画（案）》

- ・2年債については、5年債と同程度の応募者利回りとなる蓋然性が高いので、経済的な効果として、今は発行する状況ではない。ただ、状況によっては使い勝手のある年限と考えるので、手段として持っておくことは非常に重要。
- ・300億円の減額を市場公募債の10年債で行うことについては、資料3-2にあるとおり、昨年度は金利軽減効果などが出ているので、今年度もこの方向でいいのではないか。また、10年債は金利上昇局面にあるので、10年債を減額することでコスト削減効果はあると思う。
- ・地方債（10年債）の発行量が増加傾向にある10月～12月に10年債を減額する点も賛成。
- ・10年債を減額する一方、低金利の状況下で、超長期債を想定したフレックス枠を確保しているのは極めて合理的な判断。
- ・以上のことから、平成30年度大阪府債下半期発行計画（案）は、総合的にみて妥当。

《その他》

- 高速道路債は、発行時点ではリスクウェイトは20%だが、期中に高速道路機構に債務が承継されると10%に下がるので、そこをどう運用していくのかが一つのポイントだと思う。
- 住宅金融支援機構など10年以上の債券を発行している財投機関も多いので、その辺りをもう少し柔軟に増やしていくことを検討してはどうかと思う。
- 今後は、購入銘柄の拡大や、5年以内に絞っている期間について、どのように整理していくかを検討することも必要ではないか。

以上